

シマギョウギシバ

Digitaria platycarpa

イネ科

小笠原諸島 EN

環境省 EN

【形態・生態】

多年草。草丈は10～20cmで、茎は短く横に這い、葉は葉舌以外は無毛で、長さ2～6cm、幅3～6mm。花茎は高さ15～30cm、花序は2～3本に分枝し、小穂は花序の軸に1個ずつつく。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

稜線近くの岩石地や裸地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害のほか、外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
5	2	4	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	7	0	0

判定基準

ACD



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

アオシバ

Garnotia acutigluma

イネ科

小笠原諸島 CR

環境省 VU

【形態・生態】

多年草。草丈は0.6～1mで、叢生し、全体が無毛。葉は線状披針形で長さ20～35cm、幅8～10mm、葉鞘は長さ約10cm。円錐花序は長さ20～30cm、小穂は1花で長さ2.5～3mm。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島

【小笠原諸島における生育環境】

不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

初島住彦, 1975.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D

© 東京大学
植物標本室 (TI)

(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

シマカモノハシ

Ischaemum ischaemoides

イネ科

小笠原諸島 EN

環境省 EN

【形態・生態】

多年草。草丈は10～20cmで、茎は短く横に這い、葉は長さ4～10cm、幅5～10mm。花茎は高さ20～30cm、花序は長さ3～6cmで2本に分かれる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

稜線近くの岩石地や裸地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害のほか、外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ハイシバ

Lepturus repens

イネ科

小笠原諸島 EN

環境省

【形態・生態】

多年草。草丈は15～40cmで、根元から匍匐枝を伸ばす。葉身は長さ5～12cm、幅3～5mm。穂状花序は長さ5～15cm、花軸は節ごとに「く」の字形に曲がり、凹みの中に無柄の小穂がつく。

【分布の概要】

小笠原諸島、九州、南西諸島; 太平洋の熱帯・亜熱帯地域に広く分布

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの林縁や草地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

他の雑草と見間違えやすいため、工事などの際に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982a; 長田武正, 1989.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

コゴメビエ ※備考 (p. 301)

Paspalidium distans

イネ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

多年草。草丈は30～40cmで、葉は束生し、長さ10～15cm、幅2.5～4mm。穂状の小花序がまばらに着き、長さ1.5～2.4mmの卵形の小穂が2列に並ぶ。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

稜線近くの岩石地や緩斜面の草原に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害のほか、外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	3	2	3	2	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	5	2	0

判定基準
協議による



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

ノヤシ, セボリヤシ

Clinostigma savoryanum

ヤシ科

小笠原諸島 VU

環境省 VU

【形態・生態】

常緑高木。小笠原の固有種で、樹高10mを超えることもある。葉は羽状複葉で長さ1～3m。小葉は50～60対で長さ30～40cm、幅約2.5cm。幹上部の葉鞘下部に箒状に分枝した花序を伸ばし、多数の花をつける。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地の緩斜面や窪地などの林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ネズミ類による果実の食害のほか、カンショオサゾウムシによる成長点の食害が懸念されている。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
12	16	5	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	14	14	0

判定基準
D



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

ウミノサチスゲ

Carex augustini

カヤツリグサ科

小笠原諸島

VU

環境省

【形態・生態】

セキモンスゲの変異に含めるかどうかは今後の課題である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

南硫黄島の雲霧林内の林床や樹幹に着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

勝山輝男, 2005.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマイソスゲ

Carex boninensis

カヤツリグサ科

小笠原諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。葉は束生し、長さ 50～60cm、幅 5～10mm。花茎は高さ 30～50cm、頂小穂は雄性、2～4 個の側小穂は雌性、雌鱗片は長芒を有し、果胞は長い嘴を持つ。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸や稜線の開けた岩場に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害のほか、外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

勝山輝男, 2005.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

チチジマナキリスゲ

Carex chichijimensis

カヤツリグサ科

小笠原諸島 EN

環境省 EN

【形態・生態】

多年草。葉は束生し、幅2～4mm、稈より低い。花茎は高さ40～80cm、小穂はすべて雌性で雄花部は雌花部よりも短い。雌鱗片は長芒を有し、果胞は短い嘴を持つ。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害のほか、外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

勝山輝男, 2005.



© 東京大学 植物標本室 (TI)

(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	2	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準
D

セキモンスゲ

Carex toyoshimae

カヤツリグサ科

小笠原諸島 VU

環境省 VU

【形態・生態】

多年草。葉は束生し、長さ50～60cm、幅3～10mm、稈より高い。花茎は高さ20～40cm、頂小穂は雄性、2～4個の側小穂は雌性、雌鱗片は短芒を有し、果胞は長い嘴を持つ。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003; 勝山輝男, 2005.



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	2	2	4	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	8	0	0

判定基準
ACD

ムニンヒョウタンスゲ

Carex yasuii

カヤツリグサ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

多年草。葉は束生し、幅2～4mm、稈より低い。花茎は高さ20～40cm、頂小穂は雄性、2～3個の側小穂は雌性または先端に雄花部をつける。雌鱗片は短芒を有し果胞より短い。果胞は狭長で短い嘴を持つ。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害のほか、外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

勝山輝男, 2005.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

ACD

© 東京大学
植物標本室 (TI)

(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンテンツキ ※備考 (p.301)

Fimbristylis longispica var. *boninensis*

カヤツリグサ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。草丈は30～40cmで、葉は束生し、幅は約3～4mmで先はややとがる。花茎は長さ40～50cmで先端につく花序は集散状。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日当たりの良い乾燥した緩傾斜地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害のほか、外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	3	4	3	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	7	0	0

判定基準

ACD



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

ハハジマテンツキ ※備考 (p.301)

Fimbristylis longispica var. *hahajimensis*

カヤツリグサ科

小笠原諸島 EN

環境省 EN

【形態・生態】

多年草。草丈は 15～20cm で、葉は束生し、幅は約 1～2mm で先は細くとがる。花茎は長さ 40～50cm で先端につく花序は集散状。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

稜線近くの乾燥した岩石地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003.



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
D

ムニンアンペライ, ネビキグサ

Machaerina rubiginosa

カヤツリグサ科

小笠原諸島 VU

環境省

【形態・生態】

多年草。地下茎は長く匍匐する。稈は高さ 60～80cm、断面は円柱形で径 2～3mm、稈に似た葉が根生する。茎の上部に数個の小穂が密集した花序を 3～5 個つける。

【分布の概要】

小笠原諸島、本州、四国、九州、南西諸島；東南アジア、オーストラリア

【小笠原諸島における生育環境】

やや開けた湿地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や自生地の乾燥化、外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982a; 豊田武司 (編), 2003.



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

シマイガクサ ※備考 (p. 300)

Rhynchospora boninensis

カヤツリグサ科

小笠原諸島 VU

環境省 VU

【形態・生態】

多年草。草丈は 20～30cm で、葉は束生し、花茎の先に球頭状に密集した花序(分花序)が集まる。そう果は倒卵楕円形で長さ 2～2.5mm。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日当たりの良い緩斜面の草原や疎林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害のほか、外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	2	1	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンイヌノハナヒゲ

Rhynchospora chinensis var. *curvoaristata*

カヤツリグサ科

小笠原諸島 VU

環境省 VU

【形態・生態】

多年草。草丈は 30～70cm で、葉は束生し、幅 2～3mm。稈の先端やその下に 2～5 個の花序をつける。小穂は長さ 5～6mm で 4～5 個の淡赤褐色の鱗片がつく。イヌノハナヒゲ *R. rugosa* に似るが、植物体は強壯で、小穂は細く、鱗片の先が反り返る。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日当たりの良い湿った場所に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害のほか、外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	2	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E + ACD



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ジョウイ

Schoenus brevifolius

カヤツリグサ科

小笠原諸島 **VU**

環境省

【形態・生態】

多年草。地下茎は匍匐する。稈は叢生し、高さ 1.5m に達する。稈の先端近くに長い柄を持つ小穂が多数つく。

【分布の概要】

小笠原諸島；オーストラリア、ニューカレドニア

【小笠原諸島における生育環境】

山地平坦面のやや湿った明るい疎林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や自生地の乾燥化、外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003.



© 東京大学
植物標本室 (TI)

(執筆者：加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

~ 10	~ 50	~ 100	~ 1000	~ 10000	~	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

~ 1/100	~ 1/10	~ 1/2	~ 1	~	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

オオサンククイ

Scirpus grossus

カヤツリグサ科

小笠原諸島 **VU**

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。稈は高さ 1 ~ 2 m、太さ 10 ~ 12mm、断面が三角形で側面がやや凹む。葉は束生し、幅 1.5 ~ 3cm で先端に向かって徐々に細くなる。小穂は長さ 6 ~ 10mm で楕円形または長楕円形。

【分布の概要】

小笠原諸島；台湾、中国、東南アジア、ミクロネシア、オーストラリア

【小笠原諸島における生育環境】

やや開けた湿地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化のほか、外来植物との競合や被圧に注意することが望ましい。

【関連文献】

Koyama, T. et al., 2000.



(執筆者：加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

~ 10	~ 50	~ 100	~ 1000	~ 10000	~	不明
0	0	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

~ 1/100	~ 1/10	~ 1/2	~ 1	~	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
D

シマクマタケラン

Alpinia boninsimensis

ショウガ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。草丈は0.6～1.2mで、葉は狭長楕円形で長さ30～60cm、幅6～12cm。偽茎の先から総状または円錐状の花序を出す。花は白色で内花被は赤色の筋が走る。なお、火山列島に分布する本種にイオウクマタケランの和名と、*A. nakaiana*の学名が用意されたが、正式には発表されていない。また、火山列島産の本種をシマクマタケランから別種として区別する特徴も現段階では見出されていない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
4	6	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	3	8	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オガサワラシコウラン

※備考 (p. 300)

Bulbophyllum boninense

ラン科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。根茎は短く匍匐し、卵形の偽球茎をまばらにつける。葉は多肉質で長さ8～17cm、幅2～5cm。偽球茎の基部から花茎をのばし、先端に3～5個の花をつける。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

湿った樹幹や岩上に着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003; 中島睦子(著)・大場秀章(監修), 2012.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
8	12	3	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	2	15	1	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ツルラン

Calanthe triplicata

ラン科

小笠原諸島 **CR**

環境省 **VU**

【形態・生態】

多年草。葉は狭長楕円形で長さ 20～50cm、幅 8～15cm。基部の葉腋から 40～80 cm の花茎を伸ばし、先端に 20～40 個の白色の花を密につける。

【分布の概要】

小笠原諸島、九州(南部)、南西諸島; 東南アジア

【小笠原諸島における生育環境】

南硫黄島の雲霧帯の疎林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982a; Kobayashi, S., 1983; 中島睦子(著)・大場秀章(監修), 2012.



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
E + ACD

アサヒエビネ

Calanthe hattorii ※備考 (p. 301)

ラン科

小笠原諸島 **VU**

環境省 **VU**

【形態・生態】

多年草。草丈は 0.5～1m で、葉は狭長楕円形で長さ 30～60cm。0.5～1m の花茎を伸ばし、花序は総状で多数の黄色の花をつける。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取やノヤギによる食害のほか、外来植物との競合や被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003; 中島睦子(著)・大場秀章(監修), 2012.



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
4	11	3	1	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	2	10	0	0

判定基準
E + ACD

ホシツルラン

Calanthe hoshii

ラン科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

多年草。種子島、南西諸島に分布するツルラン *C. triplicata* に類似し、同種とする見解もある。しかし、ホシツルランは、花がやや大きく、花柄は長さ約 5cm(ツルランは 3.5～4cm)、距はまっすぐで長さ 3.5～4cm(ツルランは上部で曲がり長さ 2～3cm)などの点で異なる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取やアフリカマイマイによる食害のほか、自生地の乾燥化や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

Kobayashi, S., 1983; 豊田武司 (編), 2003; 中島睦子 (著)・大場秀章 (監修), 2012.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

チクセツラン

Corymborkis subdensa

ラン科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。草丈は 1～1.5 m になる。葉は長楕円形から狭披針形で多数の平行脈が目立ち、基部は茎を抱く。葉腋から白色の花を咲かせる。南西諸島に分布するバイケイラン *C. veratrifolia* と同種とする見解もある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取やアフリカマイマイによる食害のほか、自生地の乾燥化や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003; 中島睦子 (著)・大場秀章 (監修), 2012.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	5	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	8	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

イモネヤガラ

Eulophia zollingeri

ラン科

小笠原諸島 **EN**

環境省 **EN**

【形態・生態】

多年草。別名イモラン。葉緑素を持たない菌根植物で、肥大した地下茎が地表に露出する。茎は高さ 30～50cm で茶褐色で、茶褐色の花を 5～20 個、総状につける。小笠原産は固有種 *E. toyoshimae* として扱われたこともあったが、九州、南西諸島に分布する表記と同種であることが判った。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取やアフリカマイマイによる食害のほか、自生地の踏みつけに注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003; 中島睦子 (著)・大場秀章 (監修), 2012.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	7	0	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	0	9	0	0

判定基準
ACD



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンヤツシロラン ※備考 (p. 300)

Gastrodia boninensis

ラン科

小笠原諸島 **EN**

環境省 **EN**

【形態・生態】

多年草。葉緑素を持たない菌根植物。茎は灰褐色で花時は高さ 8～10cm、茎の先に緑色がかかった褐色の花を 3～8 個つける。果時には果柄が伸びて 20cm 以上になる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

目立たない植物で、毎年咲くとは限らないため、自生地の踏みつけに注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003; 中島睦子 (著)・大場秀章 (監修), 2012.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
7	1	1	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	3	4	0	0

判定基準
ACD



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

ナンカイシュスラン

Goodyera augustinii

ラン科

小笠原諸島 EN

環境省

【形態・生態】

多年草。茎の基部は地表近くを這い、長さ10～30cm。葉は長さ2～6.5cm、幅1～4cm。茎の先に総状花序をつけ、苞は子房より長い。屋久島、南西諸島からインドにかけて広く分布するツククサシュスラン *Goodyera foliosa* に類似し、同種とする見解もある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

南硫黄島の雲霧帯の林床または樹上に着生したコケの中を這うように生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

Tuyama, T., 1938; 中島睦子 (著)・大場秀章 (監修), 2012.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマクモキリソウ

Liparis hostifolia

ラン科

小笠原諸島 CR

環境省

CR

【形態・生態】

多年草。2枚の葉の付け根に球状の偽球茎がある。葉は長さ約12cm、幅約7cm。花茎は約20cm、総状に約10個の淡紫色の花を咲かせる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地のやや湿った岩上や樹上に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

父島と南硫黄島で採集記録があるが、最近は見つかっていない。滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

Tuyama, T., 1937; 豊田武司 (編), 2003; 中島睦子 (著)・大場秀章 (監修), 2012.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

コ克蘭 *Liparis nervosa*

ラン科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

多年草。茎は円柱形で2～3枚の葉をつける。葉は長さ5～12cm、幅2.5～5cm。花茎は高さ15～30cmで暗紫色の花を5～10個総状につける。

【分布の概要】

小笠原諸島、本州、四国、九州；台湾、中国

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

父島では遊歩道沿いに多く、近年急速に個体数が増えていることから、国内移入種の可能性もある。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982a; 中島睦子(著)・大場秀章(監修), 2012.



(執筆者：加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	1	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	2	0

判定基準
E

ムニンボウラン *Luisia boninensis*

ラン科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

多年草。茎は長さ10～20cmで葉鞘に被われる。葉は多肉の円柱状線形で長さ6～12cm。葉腋から小さな花を咲かせ、唇弁の先は明瞭には裂けない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

湿った樹幹や岩上に着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取やアフリカマイマイによる食害のほか、自生地の踏みつけに注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982a; 豊田武司(編), 2003; 中島睦子(著)・大場秀章(監修), 2012.



(執筆者：加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
8	7	0	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	0	12	0	1

判定基準
ACD

シマホザキラン

Malaxis boninensis

ラン科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

多年草。草丈は20～30cmで、数枚の葉をつける。葉は狭披針形から長楕円形で、長さ5～10cm、幅2.5～3.5cm。総状花序に多数の淡緑色の花をつける。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林の林床や岩上に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のほか、外来植物との競合や被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003; 中島睦子(著)・大場秀章(監修), 2012.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	1

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ハハジマホザキラン

Malaxis hahajimensis

ラン科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。草丈は15～25cmで、数枚の葉をつける。葉はシマホザキランよりも広く、卵状長楕円形から広楕円形。花は唇弁が紫色。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林の林床に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取やアフリカマイマイによる食害のほか、外来植物との競合や被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003; 中島睦子(著)・大場秀章(監修), 2012.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	1	3	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	3	0	0

判定基準

D



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマツレサギソウ

Platanthera boninensis

ラン科

小笠原諸島 **EN**

環境省 **EN**

【形態・生態】

多年草。花茎を含めて草丈 20～40cm で、下部の葉は狭卵形から長楕円形。総状花序に淡黄白色の花を多数咲かせる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った明るい疎林や林縁に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のほか、外来植物との競合や被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003; 中島睦子 (著)・大場秀章 (監修), 2012.



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
4	3	3	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	4	4	1	0

判定基準
ACD

ムニンキヌラン

Zeuxine boninensis

ラン科

小笠原諸島 **EX**

環境省 **EX**

【形態・生態】

多年草。茎の下部は匍匐、斜上し、高さ約 30cm、茎に開出毛があり、卵状披針形の葉を 3～6 枚つけ、その先に穂状総状花序をつける。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育していたと推定される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

母島の石門山で採集記録があるが、1968 年の日本返還後は見つからない。

【関連文献】

Hashimoto, T., 1986; 豊田武司 (編), 2003;
中島睦子 (著)・大場秀章 (監修), 2012.



© 東京大学植物標本室 (TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

【種名・学名などの準拠文献】

種子植物の分類体系は日本で普及している Engler の分類体系を採用し、被子植物は主に Melchior (1964)、裸子植物は Pilger & Werdermann (1954) に従った。シダ植物は岩槻 (1992) によった。なお、科内の種名の配列は学名のアルファベット順とした。

岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 平凡社. 311 pp.

Melchior, H., 1964. A. Engler's Syllabus der Pflanzenfamilien, 12th edition, Vol.2, Angiospermen. Gebrüder Borntraeger, Berlin.

R. Pilger & E. Werdermann, 1954. Gymnospermae. In: Melchior, H. & E. Werdermann, A. Engler's Syllabus der Pflanzenfamilien, 12th edition, Vol.1, Allgemeiner Teil Bakterien bis Gymnospermen. Gebrüder Borntraeger, Berlin.

【備考】 レッドリスト改定時における評価の根拠など補足情報

和名	備考
コブラン	ここ数年は生育が確認されていない。
リュウビンタイモドキ	増加傾向にある。また北硫黄島で新たに個体群が確認された。
ハハジマホラゴケ	増加傾向にある。
イワホウライシダ	
オガサワラツルキジノオ	
オガサワラホラゴケ	新たに個体群が確認された。
コキンモウイノデ	
オオホシダ, ムニンミヅシダ	
ホソバシケチシダ	
シマクジャク	
ナガバコウラボシ	
ヘラナレン	
マツバシバ	
シマイガクサ	
オガサワラシコウラン	
メヘゴ	ノヤギの食害により減少傾向にある。
オトメシダ	増加傾向にあるとともに、新しい個体群も確認された。
オオヤマイチジク	減少傾向にある。
オトキワイヌビワ	父島では減少傾向にある。
ムニンヤツシロラン	
オガサワラグワ	減少が著しい。
ナンカイアジサイ	タマアジサイに似た未記載種。南硫黄島のみ分布。
イオウトウキイチゴ	絶滅の可能性がある。
ムニンハダカホオズキ	
テリハニシキソウ	ノヤギの排除により増加。新たに個体群も確認された。
ムニンイヌツゲ	増減に関する情報が増えた。
ヤエヤマハマナツメ	国内外来種の可能性もあり。
カラピンラセンソウ	2007年の南硫黄島での調査結果を踏まえ判定した。
ホソバヤロード	今回調査で収集されたデータから現存個体数は少ないと見積もられた。
シマザクラ	父島では減少しているが、その他の島では増加傾向にある。

シマカコソウ	母島において、新たに個体群が確認されたが、父島では危機的な状況にある。
ムニンタツナミソウ	ノヤギによる食害が著しい。
シマウツボ	
オオハマギキョウ	母島属島で増加傾向にある。
オガサワラアザミ	父島では減少しているが、聳島、媒島では増加傾向にある。
コゴメビエ	ノヤギの排除により嫁島では増加傾向にある。
ムニンテンツキ	ハハジマテンツキとムニンテンツキは分類学的検討が必要である。
ハハジマテンツキ	
アサヒエビネ	保全対策の効果が現れつつある。また新たに個体群が確認された。

【関連文献】

- Hashimoto, T., 1986. Taxonomic miscellanies of Orchidaceous plants (2). *Annals of the Tsukuba Botanical Garden*, 5: 17-30.
- 初島住彦, 1975. 琉球植物誌 (追加・訂正版). 沖縄生物教育研究会. 1002 pp.
- 岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物シダ. 平凡社. 311 pp.
- Iwatsuki, K., T. Yamazaki, D.E. Boufford & H. Ohba, 1993. Flora of Japan, 3a (Angiospermae, Dicotyledoneae, Sympetalae (a)). Kodansha. 181 pp.
- 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版. 179 pp.
- 勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ. 文一総合出版. 375 pp.
- Kobayashi, S., 1983. A new orchis in the Bonin Islands (2). *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 34: 116-119.
- Koyama, T., C.S. Kouth & W. C. Leong, 2000. Cyperaceae. In: Editorial Committee of the Flora of Taiwan, Second Edition (ed.) Flora of Taiwan, 2nd edition vol. 5, p. 192.
- 倉田悟・中池敏之 (編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 第2巻. 東京大学出版会. 648 pp.
- 倉田悟・中池敏之 (編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 第3巻. 東京大学出版会. 728 pp.
- 倉田悟・中池敏之 (編), 1985. 日本のシダ植物図鑑 第4巻. 東京大学出版会. 850 pp.
- 倉田悟・中池敏之 (編), 1987. 日本のシダ植物図鑑 第5巻. 東京大学出版会. 816 pp.
- 倉田悟・中池敏之 (編), 1989. 日本のシダ植物図鑑 第6巻. 東京大学出版会. 881 pp.
- 長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜. 平凡社. 759 pp.
- 中島睦子 (著)・大場秀章 (監修), 2012. 日本ラン科植物図譜. 文一総合出版. 408 pp.
- Ohba, H., 1971. A Taxonomic study on Pteridophytes of the Bonin and Volcano Islands. *The Science Reports of the Tohoku University, 4th Series, Biology*, 36(1-2): 75-127.
- 大場秀章, 1982a. 南硫黄島の植物相. 南硫黄原生自然環境保全地域調査報告書, pp. 61-143.
- Ohba, H., 1982b. A branched tree fern. Studies on the plants of Isl. Minami Iwojima (Japan) (1). *The Journal of Japanese Botany*, 58: 321-327.
- Ohba, H., 1983a. Miscellaneous notes on ferns. Studies on the plants of Isl. Minami Iwojima (Japan) (2). *The Journal of Japanese Botany*, 58: 23-27.
- 大場秀章, 1983b. 空からみた南硫黄島の木生シダの群落. 植物研究雑誌, 58: 27-28.
- Ohba, H., 1986a. *Hibiscus pacificus* Nakai from the Volcano group of Islands, Japan. *The Journal of Japanese Botany*, 62: 97-103.
- Ohba, H., 1986b. The genus *Hydrangea*. Studies on the plants of Isl. Minami Iwojima (Japan) (3). *The Journal of Japanese Botany*, 61: 173-180.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1982a. 日本の野生植物 草本I. 平凡社. 305 pp.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1982b. 日本の野生植物 草本II. 平凡社. 318 pp.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1982c. 日本の野生植物 草本III. 平凡社. 259 pp.
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1989a. 日本の野生植物 木本 I. 平凡社. 321 pp.
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫 (編), 1989b. 日本の野生植物 木本 II. 平凡社. 305pp.
- 田川基二, 1983. 原色日本羊歯植物図鑑. 保育社. 270 pp.
- Tang, Y., Gilbert, M. G. & Dorr, L. J. 2007. Tiliaceae. In: Wu, Z. Y., P. H. Raven & D. Y. Hong (eds.). Flora of China 12 (Hippocastanaceae through Theaceae), pp. 240-263. Science Press, Beijing & Missouri Botanical Garden Press.
- 豊田武司 (編), 2003. 小笠原植物図譜 増補改訂版. アボック社出版グループ. 522 pp.
- Tuyama, T., 1937. Plantæ Boninenses Novæ vel Criticæ. IX. *The Botanical Magazine*, 51: 125-132.
- Tuyama, T., 1938. Plantæ Boninenses Novæ vel Criticæ. X. *The Botanical Magazine*, 52: 463-467.
- Tuyama, T., 1939. Plantæ Boninenses Novæ vel Criticæ XII. *The Botanical Magazine*, 53: 1-7.

